

# ミレニアム・ゴールって

どうなったの？

## 「連携の時代の NGO と市民の役割」

現在、世界で1日1.25ドル以下の生活を強いられている人口は、10億人といわれています。2000年に国連で、これら地球規模課題の解決のため2015年までに達成するべき目標として「ミレニアム開発目標（MDGs）」にまとめました。2005年から「援助効果」を高めるため、各国政府と援助機関の間で議論が進められていましたが、市民社会の視点が反映されることは多くありませんでした。

そこで世界の NGO を含む CSO(公共益を追求する非政府、非営利組織)がネットワークをつくり働きかけた結果、2008年からは、広く市民社会の声を聞くプロセスがとられるようになり、NGO側の議論も本格化しました。また、CSOが主体的に行う活動を見直す「CSO開発効果」についての議論が70か国以上で、2000を超えるNGOなどが参加して進められました。

私たちの日常からは遠い援助や国際協力の世界的なトレンドを、NGOの現場経験が長く、政府や国際援助機関への政策提言で日本社会をリードしてきた大橋正明さんに聞きます。

**日時:2014年7月26日(土)午後2時～午後5時**

**会場:名古屋 YWCA201,202号室(名古屋市中区新栄町2-3)**

**参加費:¥500 定員40名**

**申込:ファックス、電話、メールで 名古屋 NGO センター (担当:門田)**

TEL&FAX:052-228-8109 (TELは火～土:13時～17時) メール: info@nangoc.org

第一部 講演「連携の時代の NGO と市民の役割」 — 講師:大橋正明氏

「CSO開発効果」に加えて、2015年に新たにつくられるポスト MDGs/SDGs(持続的可能な開発目標)、及び防災(DRR)の国際的フレームである「兵庫行動枠組み(HFA)」とも関連させ、2000年以降の国際的な開発潮流についてわかりやすく話されます。

第二部 ワークショップ — ファシリテーター:アジア保健研修所(AHI)職員

初めての方や個人の参加者のグループでは理解を深めたり質問を整理します。



講師紹介;大橋正明氏

聖心女子大学教授、国際開発学会副会長、JANIC 理事長、シャプラニール評議員、NGO・外務省定期協議会連携推進委員会 NGO 側座長、ODA 大綱見直し有識者懇談会メンバー等を務める。

主著に、「バングラデシュを知るための60章 第二版」(共編著)明石書店、09年

**主催:特定非営利活動法人名古屋 NGO センター**  
**共催:国際開発学会東海支部 後援 JICA 中部(申請中)**

